

■日時 平成29年12月20日(水)14:00~16:00

■場所 新潟県自治会館 本館2階 201会議室

■出席者

<構成機関>

新潟市、長岡市、三条市、加茂市、見附市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、新潟県(防災局、農地部、土木部)、北陸農政局、新潟地方气象台、北陸地方整備局河川部

■議事

- 信濃川下流大規模水害に関する減災目標を達成するための各機関の取組(中間報告)
- 水防法改正に伴う緊急行動計画について(提案)
- ワーキンググループ報告
- その他



議事概要

- ①信濃川下流大規模水害に関する減災目標を達成するための各機関の平成29年度取組状況について中間報告を実施
- ②平成29年7月出水の対応状況及び課題等について情報共有を実施
- ③緊急行動計画(平成29年6月20日)の取り組み方針への反映について意見交換を実施
- ④WGの取組内容について意見交換を実施

大規模浸水対策ワーキンググループ

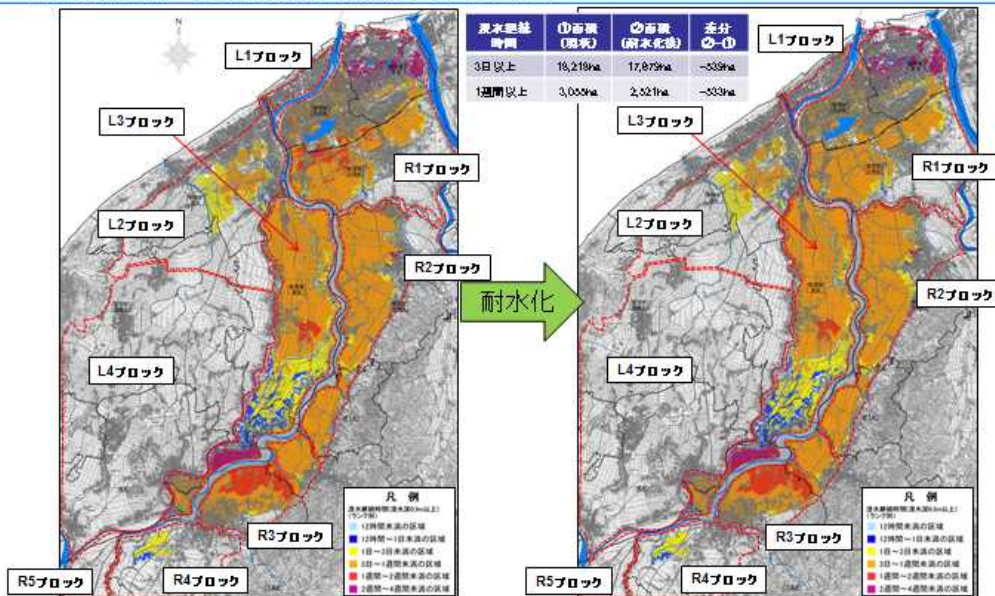
- 信濃川下流域における河川氾濫時の社会的リスクの共有と氾濫被害軽減に向けた方策について検討を実施。
- 平成28年度は1回(H29. 1. 18、H29. 2. 21)のWGを開催し、想定最大降雨規模を対象とした外水氾濫によるリスク情報の共有、排水機場の浸水リスク評価、適時的確な避難に向けた検討などを実施。
- 平成29年度は、適時的確な避難に向けた検討(ハザードマップの作成、周知方法など)を実施。(H29.10.11にWGを開催し、浸水想定区域の公表予定、HM公表予定等について情報共有。)

	H25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度～
行動計画	—	<p>【L1:計画規模(1/150)での検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> 下流域の外水氾濫の情報共有 既存の排水機場等のリスク評価 外水氾濫の被害軽減に向けた方策のリストアップ 氾濫抑制対策の検討・耐水化が有効な排水施設のリストアップ 適時的確な避難による被害軽減策検討 ライフライン・インフラ施設被害に伴う影響検討 		<p>【想定最大降雨規模を対象として検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> 下流域の外水氾濫の情報共有 既存の排水機場等のリスク評価 外水氾濫の被害軽減に向けた方策のリストアップ 氾濫抑制対策の検討・耐水化が有効な排水施設のリストアップ 適時的確な避難による被害軽減策検討 ライフライン・インフラ施設被害に伴う影響検討 		<p>適時的確な避難に向けた検討(ハザードマップの作成、周知方法など)</p>

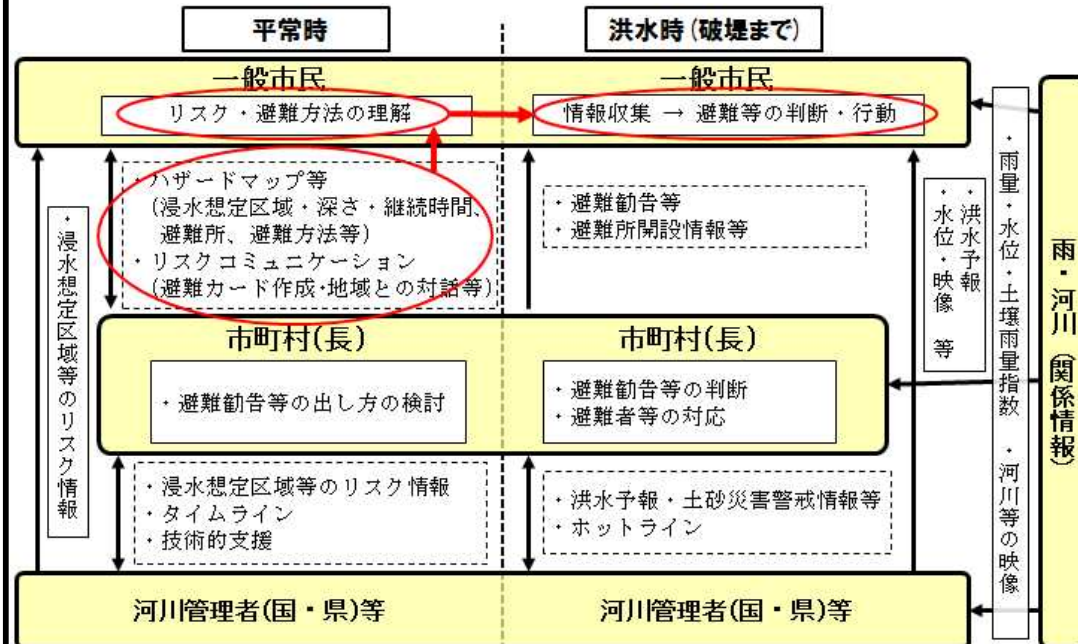
※検討結果を適宜「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき信濃川下流域の減災に係る取組方針に反映

排水機場のリスク評価(浸水被害の軽減に向けて)

- 洪水時には各ブロックで浸水が長期間継続する。例えば浸水により停止する全排水機場を耐水化した場合、1週間以上浸水が継続する面積が全体で約3,100haから約2,500haへ縮小することが可能。
- これより、排水機場による排水は重要な役割を担っているといえる。



適時的確な避難に向けた検討(逃げ遅れ“0”を目指して)



水災害情報共有ワーキンググループ

	H25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度～
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有プラットフォーム(STEP1)を開設(H26.5～) 	<ul style="list-style-type: none"> 「信濃川下流域情報共有プラットフォーム」のSTEP1をベースに、情報表示機能及び画面構成等を改良・追加したSTEP2を短期計画(概ね1～2年)で構築する。 双方向情報共有システムの検討 掲載情報の拡充 		<ul style="list-style-type: none"> 信濃川下流域情報共有プラットフォームを運用していく中で、情報の更新・拡充を実施 		<ul style="list-style-type: none"> 信濃川中流の情報を表示 想定氾濫、重要水防箇所を表示
				<ul style="list-style-type: none"> 阿賀野川の情報を表示 		

情報共有ワーキング報告

情報共有ワーキングは、これまでの運用に基づく意見要望を元に以下の機能を追加したい。引き続き、これまでの意見を踏まえた取り組みについて整理し、ワーキングにおいて情報の更新、内容拡充について検討していく予定である。

平成30年度実施する改良内容

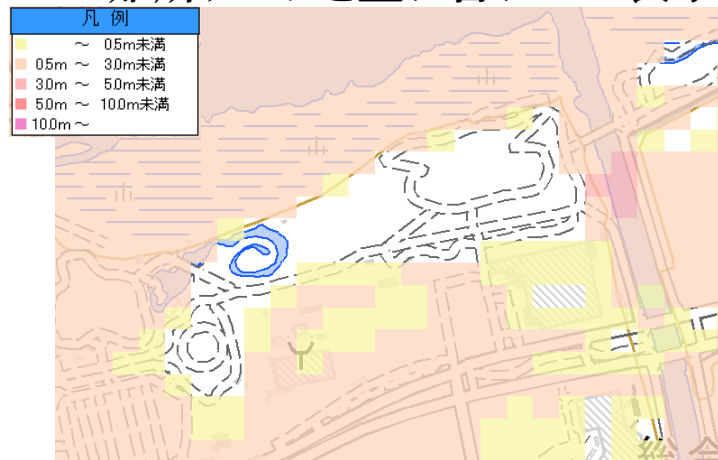
○ 信濃川中流域の情報を追加

信濃川下流と氾濫原を共有する信濃川の情報を表示。



○ 想定氾濫図の追加

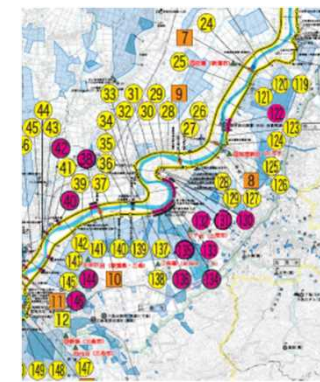
想定氾濫図を地図データや避難所データと重ね合わせて表示。



(想定氾濫図を地図ソフト上で表示した例)
計算結果は25mメッシュであるため拡大して確認しなければわからない情報がある

○ 重要水防箇所の一覧表表示を追加

河川事務所で整理している危険箇所の一覧とリアルタイムの水位観測値を併せた一覧表画面を表示する。



(現用)重要水防箇所図 3

水防災教育支援ワーキンググループ

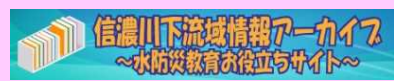
- ・水防災教育の側方支援及び自治体の防災研修等を支援することを目的として推進協議会の会員である7市1町1村、県及び国から既存の資料・図表・動画などを収集し、一元化して格納した「**信濃川下流域防災教育アーカイブ**」を創設(H28.4)。
- ・「**水防災意識社会**」の再構築に向けた緊急行動計画に基づき、水防災教育に関する指導計画作成に向けた検討を実施。

	H25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度～
行動計画	<p>【治水・農業施設連携】</p> <p>①モデルコースの作成 ②現河道施設スタンプラリー（カードの作成） ③遺構等の治水歴史巡りへの反映</p>	<p>【治水・農業施設連携】</p> <p>①関係機関より施設情報の収集整理 ②モデルコース案、リーフレット案の作成 ③電子スタンプラリーアプリの開発・試行</p> <p>【水防災教育】</p> <p>①教育機関へのヒアリング→必要な教材等の情報収集 ②関係機関より資料の収集 ③HPコンテンツを構築・試行</p>		<p>信濃川下流域情報アーカイブ運用開始(H28.4～)</p>		<p>・「信濃川下流域防災教育アーカイブ」情報の更新、内容の拡充</p> <p>・水防災教育に関する指導計画作成に向けた検討を実施</p>



運用開始からのアクセス数: 1,800件(H30.5.24時点)
→前回H29.4末時点より1.8倍UP 約800件増!

- 今後の運用について
- 1 関係機関ホームページ上へバナー(リンク)を掲載
 - 2 教育委員会等への積極的な広報
 - 3 情報の更新
 - 4 内容の拡充



- ◇「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画◇ ※参考資料3
- ①平成29年度に国管理河川の全ての129協議会において、防災教育に関する支援を実施する学校を教育関係者と連携して決定し、指導計画作成支援に着手。
 - ②平成30年度末までに、国の支援により作成した指導計画を、協議会の関連市町村における全ての学校に共有。